

二月の南座を観る（摘録）

安部豊

〈出典：「演芸画報」、昭和10年3月〉

（前略）

「川連館」は六代目*¹の忠信が見もので、此人の判官や勘平*²のように、ちゃんと印を捺したような、規則正しい模範的の演技であることに心を引かれる。

最初花道から例の織物の長袴^{なががみしも}で出ると、二階初端の若い丸髷*³連中が「音羽屋*⁴はん」と黄色い声を掛けた。

（中略）

花道で義経に一礼した忠信は、やがて舞台に進み、義経に「静は如何せしぞ」と問われて不審の思入れ*⁵。それから別の忠信が来ると聞き、サッと下げ緒*⁶捌きをして向うを見込み、亀井駿河に前後を守られて上手へ入る形など全く無類と云い得る。

二度目の出は藤色甲斐絹の着附に、紫ぼかしの長袴^{ながはかま}で三段の中段から現われ、鼓の音に慕い寄る狐の動作を、上品に見せる。静から「さてはそなたは狐ぢやな」と詰寄られ、直ぐに下手高二重*⁷から床下へ消え、更に毛縫い姿で上手の襖を返して走り出で、三段の下手の欄干^{らんかん}を飛起して、下に平伏する手際極めてよく、肥満した体を軽々と楽に持運ぶコツが堂に入っている。丸髷の一人が「危なうおつせ・・・」と真剣で注意する。後ろの方からは男が江戸式に「音羽屋」と叫ぶ。皆彼氏の芸に引付けられたものであろう。

毛縫いは誰が考えたものか白羽二重に白の絹糸を植えたもので、如何にも魔性の白狐に見えるから妙である。帯を片ひだに結んで、狐の尾に見せる趣向も五代目*⁸式で、欄干渡りの時など、それが実際の尾のように見える。昔の役者には智慧者が多かったものか、一寸したことでその考えが理屈に嵌っている。豪いものだ。

それから「御大将を伏し拝み・・・」で鼓の方を懐しげに振返り、親鼓に名残りを惜しむところ、真情溢れて惻々*⁹身に迫るものがある。至芸の現われで、ここらになると全く一言もない。

それで一旦下手の籬*¹⁰の内に入り、また鼓を打たれて下手から出るが、籬を越して入ったら更に変化があつてよいと思うが・・・。

鼓の狂いは、莫迦々々しいと高を括って見ていながら、いつしか気を取られ、前に乗出して見ることになる。芸の力は偉大なものだ。

三津五郎の義経は品位があり、男女蔵の静御前も、故人門之助に見る柔しきは乏しいが演技は相当なものであつた。鼓を打てないのは恥にならぬが、打てた方がよい。

そこで此場は例の通り狐忠信が上手の桜の立木へせりで行くと浅黄幕を下し、大ぎつま*¹¹になった。唄は富士田新蔵、三味線は杵屋勝松で、三味の方に団扇を挙げる。此人柏伊三郎に私淑して近来頗る上達した。新蔵は一頃の彼氏とは別人の観ありで、実に振わない。震え声はどうにかならぬものか。音蔵没して以来、今に其衣鉢を襲げないとは

心細いことである。

そこで浅黄幕を切って落とすと、花道から友右衛門の覚範^{とも えもん かくはん}が出て、七三^{しちさん}*12で大雑刀^{おおなぎなた}に片足かけた見得があり、舞台真中^{まんなか}で見現^{みあらわ}し*13の引抜き大百^{だいひゃく}*14姿になるところ、これも大時代の芝居らしくて目正月^{めしやうがつ}*15になる。顔も立派で調子も張れて、なかなか上物^{じやうもの}である。花四天^{はなよてん}*16の殺陣も寔^{まこと}に面白く、斯うした事は此一座が最も優れている。

(後略)

《編注》

- * 1 六代目：六代目尾上菊五郎^{おのえきくごろう}。
- * 2 判官や勘平：『仮名手本忠臣蔵』に登場する塩冶判官と早野勘平を指す。
- * 3 丸髷：女性の髪^{かみ}の結び方の一種。ここでは集団で観劇に来た芸妓や舞妓を指している。
- * 4 音羽屋：尾上菊五郎の屋号。
- * 5 思入れ：せりふを使わずしぐさや動作で心の動きを表現すること。
- * 6 下げ緒：刀を帯に結びつけるために刀の鞘に装着する紐のこと。
- * 7 高二重：歌舞伎の大道具の一種。御殿や寺院など高さのある建物に用いる、特に床面を高くするための台。
- * 8 五代目：五代目尾上菊五郎。
- * 9 惻々と：身にしみていたましく感じるさま。
- * 10 籬：竹や柴などで目を粗く編んだ垣根。
- * 11 大ざつま：三味線音楽の一種である大薩摩節のこと。
- * 12 七三：花道七三。揚幕から舞台まで花道を十等分して最後方の揚幕から七、舞台付際から三の場所にあたることからこう呼ばれる。花道を通る役はここで一度立ち止まって演技をすることが多い。ここにはすっぽんと呼ばれる^せ迫りも設置されている。
- * 13 見現し：正体を隠した登場人物が、他の者に正体を見抜かれたことをきっかけに、本名を名乗って正体をあらわす演出。
- * 14 大百：時代物の盗賊などに用いられる、月代^{さかやき}が百日分ほど長く伸びた鬘の名称。百日鬘とも言い、これより少し短いものに五十日鬘がある。
- * 15 目正月：目の保養。
- * 16 花四天：四天は兵や捕手のこと。花四天は華やかな場面で出てくる。通常の武器の代わりに花の枝などを持っていることが多い。